

ウメ新品種「^{すいほう}翠豊」について

1 品種育成のねらい

毎年、高品質なウメを生産・販売するため、開花期の天候によらず、安定した収穫量が得られる青ウメ品種の育成が求められていた。

そこで、県内の主要品種である「白加賀」と同時期に収穫でき、収穫量が安定して多い青ウメ品種の育成を目指した。

2 育成の経緯

平成9（1997）年に「白加賀」の自然交雑種子を播種し、得られた実生78個体を養成して特性を調査した結果、収穫時期が「白加賀」と同時期で、果粒重が「白加賀」と同程度の大きさで、ヤニ果の発生が非常に少ない1個体を選抜し、平成25（2013）年に品種候補とした。

その後、収穫量の調査を続けた結果、約2.5t/10aで推移したことから、青ウメ系統として有望と判断して令和2（2020）年に育成を完了し、「翠豊」と命名して、令和3（2021）年3月15日に種苗法に基づき品種登録出願を行い、同年6月29日に出願公表された。



3 品種の特徴

- ・ 収穫期は「白加賀」と同じ6月上旬であるが、開花盛期は「白加賀」より10日程度早い2月20日頃になる。
- ・ 収穫量は毎年安定しており、「白加賀」の2倍以上で、約2.5t/10aになる。
- ・ 果実は「白加賀」と同程度の大きさ（32g/果）で、果実の表面にゼリー状のヤニが着いたヤニ果の発生が少なく、綺麗な果実が多く収穫できる。

表 翠豊の開花期、収穫最盛期、収量および果実品質（2020年）

品種名	開花始期	開花盛期	収穫最盛期 ^z	収量 (kg/10a)	果実重 (g)	核重率 (%)	ヤニ果率 ^y (%)	日焼け果率 (%)
翠豊	2月9日	2月20日	6月2日	2704	32.8	10.4	1.2	3.8
白加賀	2月20日	3月2日	6月2日	607	31.9	8.4	3.5	2.6
南高	2月7日	2月19日	6月18日	2620	34.3	8.8	0.7	20.6

z: 収量が全体の50%となる日を収穫最盛期とした

y: ヤニ果率は外ヤニ果の発生率を示す

4 品種名

品種名は、果皮の鮮やかな緑色を表す「翠（みどり）」と、収穫量が多いという豊産性の「豊」から命名した。